

地域 担い手 サポ・センだより

J Aグループ山形

J Aグループ山形は2018年度、農業所得増大・地域活性化応援プログラムに、新たに中山間地域担い手規模拡大支援事業を設けた。単年度で、省力・低コスト化技術や機械導入の一部を30万円を上限に3分の1を助成する。助成総額は2000万円。

この支援事業を活用し、県地域営農法人協議会に所属する鶴岡市一霞の「かすみ」と、同市東岩本の「あさひの輝き・まんてん」の二つの農事組合法人が田植え機や草刈り機を導入し、水稻の密苗栽培や新規園芸などに生かしている。

「かすみ」は、密苗仕様

中山間地の省力・低コスト化支援

の7条田植え機と草刈り機を導入した。17年から試験的に始めた密苗移植栽培を18年から全面移行。育苗ハウス1棟を建設してJ A全農オリジナルのミニトマト「アンジェレ」のト口箱栽培も計画している。

構成員4人と従業員1人で水稻11畝、転作ソバ1畝の他、大豆やカブ、山菜などを栽培。J A出資型法人・あつみ農地保全組合と連携し、中山間地農業の受け皿の役割を担っている。若手を育てるためにも今後、園芸分野にも力を入れる。

「あさひの輝き・まんてん」は、湛水直播（たんすいちよくは）にも対応できる。この支援事業を活用して機械を導入し、作業開始に向

る汎用（はんよう）型8条多目的田植え機を導入した。今後、密苗移植栽培にも試験的に取り組む。省力化で、水稻の春作業と重なって取り組めなかった園芸への対応も可能になりつつある。

鶴岡の2法人の密苗や園芸に活用



支援事業で田植え機を導入し、密苗移植栽培に全面移行した「かすみ」の構成員ら

準備中。J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターは、中山間地の担い手への効果的な支援に向け、県に協調事業の新設を要請している。